

## 第1回北九州市宿泊税検討会 議事録

- 1 開催日時 令和5年6月29日 16時から17時30分
- 2 開催場所 AIMビル6階 コンパス小倉 C会議室(小倉北区浅野三丁目8番1号)
- 3 出席者(委員) ※敬称略、50音順  
岡本 堅吾、加倉井 良多、マッコームズ 夏野、南 博、  
棟安 正人、吉田 和代
- 4 議題 (1) 委員紹介  
(2) 座長選任  
(3) 宿泊税制度、宿泊税導入後の総括、今後の取組(事務局説明)  
(4) 質疑応答・意見交換

### 5 議事概要

#### (1) 座長選任

互選により、南委員を選任

#### (2) 過去3年間の取組の総括、今後の取組について

事務局説明

#### (3) 意見交換

ア 宿泊税制度のあり方について

##### (ア) 制度全体について

- 課税要件など税制度全体について現在大きな課題がなければ、現状のままでよいのではないか。
- 現状のままで問題や課題がないのであればこのままの制度でよい。徴収する方法が複雑になると手間がかかる。料金面も含めて現在の徴収方法がスムーズであると思われるので、現時点ではこのまま継続でよいのではないかと考える。
- 徴収者としてのホテル側の立場からすると、徴収額や徴収方法が、何回も変更になると現場も戸惑う。宿泊料金の何%とか、いくらからいくらまでは100円で、それ以上の料金を支払っている方には高額の宿泊税を負担してもらおうとか、いろんな考え方があるが、現行制度は分かりやすい。施設側としては徴収するのであれば、分かりやすいやり方をしてほしい。税率が一律200円という金額も、まあよいのかなと思う。

(福岡県との関係について)

- 福岡県の収入分 50 円があるが、その分がどのように使われているか、データがどこかに出ているかもしれないが、明確には分からない。当然この部分は北九州市ではコントロールできない税収だと思うが、せめて北九州周辺の周遊に使うなど県に申し入れすべきではないかと考える。
- この宿泊税の制度自体は徴税方法も含めて福岡県と一体的に方向性は考えていけないといけない。最近の一部報道によると、福岡県とか福岡市ではこの宿泊税に関する議論がすでに本年度始まっているということだと思うが、参考までに県とか福岡市のほうでどのような議論がなされているのか把握しておられたら、教えてほしい。  
⇒(事務局) 福岡県、福岡市とも、今年度に入って宿泊税に関する検討会をそれぞれやっており、両自治体とは配布資料の交換など情報交換を行っている。第一回目は北九州市が最後になるが、一回目が終わった時点で、その内容についてもこれから共有していく。第二回の検討会の時には、福岡県、福岡市の了解が得られた範囲でそれぞれの進捗を共有したい。

#### (イ) 宿泊税の使途について

##### (使途全般について)

- 観光振興プランに基づく施策に充当するというものの方向性については、まったく異論はない。ただし、限りある財源を有効活用するためにも、メリハリを付けて、重要施策を定めて、その点は加速して重点的に取り組むなどの工夫が必要になるのではないか。
- 観光振興プランはよく議論されており、いろんな取組が網羅されているが、具体的に何かをやるとなると、観光振興プランに挙がっているものすべてにおいて総花的な取組はできない。何をメインに取り組むかということは今後よく議論した方が良い。
- 税金の使い方としては非常に難しいところだが、おみやげものでも、観光コンテンツでも、これがすごいというものがあったら、ある程度えこひいきすべきだと思う。それをどんどん伸ばす。みんなで伸ばして、名物に仕立て上げる。それが何かはこれからの議論でしょうが、そういうような広い気持ちで取組を検討してはどうかと思う
- 観光振興策や観光客を対象にした取組が充実していくことによって、出張で来た人も、市民にとってもプラスになる。

例えば、観光振興プランの中でも言及されている、観光DXの推進や、公共交通の利用促進、災害や感染症などへの危機管理体制の強化みたいなどは、観光振興策として取り組むけれども、そこが充実したら出張で来る方にと

っての利便性の向上にもつながるし、ビジネスでの来訪も増えるなど、市として今後取り組んでいく首都圏のバックアップ機能の充実といった観点からも意味あることで、市全体の施策との整合性ともつながっていく。

狭い意味での観光客にも、ビジネスで出張に来る人にも、あるいは市民の人でホテルを利用する人にもメリットのあるような、納得のいただける説明がつく使途にしっかり取り組んでいくということが重要。

(修学旅行について)

- 修学旅行生を課税の対象としている点について、地域によっては、免税対象になっているということを聞かすが、修学旅行生にもこれまで通り課税はするが、修学旅行の誘致促進策も含め、何かしら別の方法で還元するなどを検討してもいいのではないか。
- 修学旅行のコンテンツとして、SDGsなど北九州市の強みも活かして、例えば、ホテルの宴会場などでSDGs関連の講義を実施するなど、全面的にやっていきたい。その辺に公的支援などがあるとなお良いと考える。

(宿泊施設への支援について)

- 宿泊事業者の支援という観点について、令和3年、令和4年に関してはコロナの影響もあったので、直接的な支援をしていたのはよくわかった。今後は税収を増やすために、宿泊事業者が客室をフル稼働させるための支援という観点も必要になってくるのではないか。

宿泊施設に限らず人手不足で、宿泊施設でもその影響で客室を100%稼働できておらず、税収の機会損失につながっていると思うので、人手不足などの課題対応の支援を検討してもいいかなと思う。例えば雇用にかかるコストの支援や、外国人を雇う場合は住環境の整備とか、雇った方の人材育成など、そういったコストへの支援に宿泊税の一部を充てるとするのは、価値があるのではないか。

- 雇用の支援や、外国人従業員用の住宅など、そういったことへのフォローがあれば、宿泊施設が充実し、張り切ってお客様の受け入れをする、税収が増えるという好循環が生まれる。
- ホテルとか旅館の中で飲食部門を抱えているところの調理人の人材不足が大きな問題になっている。特に残念なのは調理人をやめて違う職種に就くという人材が多いこと。

サービス業全般でも、調理人でも、一日1~2時間でもいいから手伝ってもらえると助かるというところは多い。

手に職をつけたということは、もともと調理人をやりたかったのだと思う。飲食をやりたい人はいる、一方で調理人が不足しているということなので、人材のマッチング的なものに宿泊税を活用する方法はないかなと思う。

(DMOへの支援、観光関連データの収集について)

- 今年、北九州に地域 DMOが誕生した。そのミッションの一つに観光関連のデータを収集してこれを会員などに自由に使うということがある。

この考え方は、DMOが求心力を持つために非常に重要な取組だと思うし、観光関連のデータを収集、分析することは、北九州市の観光振興全体にとっても、今後重要になってくるので、そういうところへの支援に宿泊税を使っていくとか、そういったことも検討すべきかと考える。

(観光情報の発信について)

- 一番重要なのは北九州に来ていただく人数を増やすということ。魅力の発信や訴求をしっかりと行うことが大切。

(市内周遊の促進について)

- 一つひとつの観光コンテンツはすごく魅力があるということは間違いないので、それをつなぐということが重要。移動手段がない方もいるので、公共交通機関との組み合わせで、点在している観光施設を周遊パスなどでスタンプラリー的につなぐような仕掛けづくりが必要。

その点については、以前観光振興プランにも出ていたが、地元の方と観光客がつながるということで、周遊パスの拠点に行くと、地元の方たちが街歩きのガイドをしてくださるといような仕組みがあるといい。いきなりその土地の歴史や文化を理解するのは難しいので、周遊パスと地元の方によるガイドを組み合わせることで、北九州ならではの観光コンテンツが作れるのではないかな。

それぞれの企画をさらにまとめ上げる仕組みは、DMOでやっていただくのもよいかもしれない。まとめる組織なり企業なりがしっかりあって、今あるコンテンツを組み合わせることで北九州ならではの観光資源を創っていくのが、一番観光として盛り上がっていくのではないかと考える。そういったところに宿泊税を使っていくのがよいと思う。

(市内での観光消費の拡大について)

- 旅の楽しみのひとつにおみやげものがある。明太子はよく売れるが、北九州で「これを買いたい」というものがなかなかなくて、どうしても福岡のものを買われ

ることが多い。わざわざこれを買いに北九州に来たいというものが必要なのかなと思う。例えば今だと名古屋にカフェタナカのクッキーとかをわざわざ買いに来るといふ女性も多い。

産業振興となったら「特産品を使って」という発想が多いが、それはそれとして、もっと買いたいと思うようなアイデアと仕組みづくりに対して支援が必要かなと思う。

- 食も大切な観光資源。焼きカレー、ぬかみそ炊きなどが食の魅力としてあると思うが、例えば、焼カレーやぬかみそ炊きをわざわざ食べに北九州市に行きたいという方がどれほどいるか。キラーコンテンツがないというのも弱点。北九州市にはこういうものがあるよというものを作って、それをPR・プロモーションしていくことが必要。
- 北九州市に来られるお客様の中には、門司港、唐戸市場などで観光はするが、それは昼間だけでよくて、夜はやっぱり博多の方に行って屋台に行ったり、食事して帰ったりされる方が多い。北九州市は日帰りで十分、帰るときは福岡空港からたくさんおみやげを買ったり、最後のグルメを楽しんだりなど、なかなか北九州市内での宿泊につながらないということが言われてきた。宿泊する仕掛けづくりというのはとても重要なのかなと思う。
- 例えば、函館の屋台村が北九州にあったらどうなるか？朝市があったらどうなるか？朝市や屋台を体験しようと思ったら泊まらなければいけない。泊ってもらう仕掛けが必要。あと、皿倉山など、日本一の夜景をもっと活かし、宿泊を促す仕掛けを考えるべき。
- 出張者の方や、ご家族連れとか宿泊して楽しめる仕掛け、夜と朝に楽しめるイベントを作るといふのは全体の税収の面も含めて、非常に重要なことではないか。

(事務局)

⇒夜景、屋台、朝市などを含めて、ほとんどが民間サイドのサービス。行政が関与しすぎて民間の創意工夫がうまく発揮できなくなるということも危惧され、難しいところ。ただし、必要性は間違いなくあるので、宿泊税を活用して、民間事業者に頑張ってもらって仕掛けを作るとかPRに力を入れるなどを中心に組み込んでいきたい。

(インバウンド対策)

- インバウンドに対する突っ込みがほとんど見えない。福岡空港には韓国から毎日 3500 人から4000人来ている。北九州空港には 100 人。そんな状況の中にあって、我々が今何を考えないといけないかと言うと、やはりインバウンドだと

思う。

築地だって浅草だって、外国人だらけ、福岡市にしても大分にしても物凄い数の外国人が来ている。北九州市はそこにもう少し力を入れないといけないと非常に強く思っている。

次回の検討会などの機会でも別の機会にでも、観光課のほうで、「これならば発展・繁栄は間違いないぞ」と言われるような、ワクワクするような思いになるような、そういったことを考えてもらいたい。

- 現在、全国的にインバウンドがすごい勢いだ、これがあと1年したら終わるか？多分終わらない。もっと続く、もっと勢いが出る。だから我々はそこに目を向けなければいけない。どの国の人を狙っているのか？どの国のどんな人に来てもらいと思っているのか？そのためにはどうしたらいいのか？もしPRが弱いとするならば、もっと専門家を入れて、SNSなどを使って売り込むべきだと思う。

今後は、中国からも来る。そうなったときに後悔しないようにしなければいけない。

- 第一回インバウンドセミナーが8月7日に国際会議場で行われる。これは北九州市と北九州コンベンション協会、北九州商工会議所で実施する。これも第一回で終わるのではなく、第二回、第三回と続けていって、インバウンドは絶対つかんで離さない、インバウンドをものにするぞという心構えで、継続していく。そういうところに宿泊税を使っていくとか、そういうことを考えていただきたい。